

どう生かす 大切なお金 新年度予算31億円を可決

新年度予算特別委員会（熊谷有耕委員長）は、3月5日から7日まで、3日間開かれました。

総額31億8030万円の予算に対し、活発な議論を展開。その結果、付託された8会計の予算をすべて原案可決すべきものと決定、7日の本会議で可決しました。

ここでは、特別委員会の審査の中からいくつかの質疑を取り上げ、内容を要約してお知らせします。

平成20年度も「地域資源を活かした、自立する村づくり」を進めます

Q 三陸鉄道運営費補助金が710万円ほど計上されているが、今後も補助は継続されるのか。また、この補助によっての利用者の増などへの効果は期待できるのか。

A 平成19年度から当面2カ年間の予定で三陸鉄道の損失補てん分を財政支援しているもので、県と関係市町村が損失の各2分の1を補てんしている。

目的は三鉄の存続のためで利用者が増加し赤字が解消されない限り、今後も支援することになると思われる。沿線利用者の利用は伸びていないが、観光客の利用の増加を期待している。

Q 村営バスの運営はかなりの赤字であるが、学校統合後はスクールバスを一般住民にも利用させることで、村営バスを廃止する考えはないか。また、村営バスの赤字の縮小のためには児童生徒の利用を促進する必要があると思うが、学校に対して利用の働き掛けはしているのか。

A 村営バスの廃止の予定は今のところ考えられていない。児童生徒の利用促進については、スクールバスを一般住民にも利用させることで、村営バスを廃止する考えはない。また、村営バスの赤字の縮小のためには児童生徒の利用を促進する必要があると思うが、学校に対して利用の働き掛けはしている。

ていない。児童生徒の利用促進については特に働きかけはしていないが、できる限り登校、下校時に合わせた時間を設定した運行に努めている。しかし、それぞれの事情により、家族の自家用車で送迎している実態も数多く見受けられる。

Q 村営バスの利用促進のため路線変更、バス停の増設、料金の一律化（100円バス）を検討する考えはないか。

A 100円バスについては、過去に検討した経緯はあるが、アンケート結果などから判断して料金を下げたからといって利用者が増えるということは期待できない。赤字をさらに増やす結果になりかねないことから、路線の変更などと併せて、今後検討していきたい。

Q 海産まつりの実行予算が計上されているという方針から一転して実施した経緯はないか。

A 100円バスについては、過去に検討した経緯はあるが、アンケート結果などから判断して料金を下げたからといって利用者が増えるということは期待できない。赤字をさらに増やす結果になりかねないことから、路線の変更などと併せて、今後検討していきたい。

緯があるが、今年度は間違いなく実施するの。また、実行委員会を開催しても委員の欠席が多いと感じるが、実行委員会組織の見直しと出席要請についても徹底すべきと思うがいかがか。

A 海産まつりにいっては実施するということが当初予算に計上されている。いろいろ課題もあるので、民間との協働を目指して実施に向け検討していく。

Q これまで行ってきた合同敬老会について、各地区ごとの開催に変更し、村が経費の一部を助成する方式に見直した理由は何か。

A 敬老会については、ここ数年合同で開催してきたが、参加者が毎年減少し、固定化されてきてい

不可能となったことから山車組で手造り山車を造ることになった。

今回は山車の台車に対する支援で1台当たり250万円程度の見積もりに対し、3分の2を補助するもので2台分、340万円を予算措置した。補助先は下組、中組で平成21年度は上組への支援を予定している。

Q 学校の図書購入にあたっては、小学校の学校統合を見据えて、3つの小学校が同じ図書を購入することができただけでないよう連携をとる必要があると思うがいかがか。

A また、学校統合に当たって校歌や校章はどうするか。また、学校統合に当たって校歌や校章はどうするか。

け購入しないようにというアイデアはいいと思う。学校と相談したい。

学校統合に向けての検討事項は校歌や運動着をどうするかなど、細かいことがたくさんある。統合準備委員会（仮称）や先生方、PTAも含めて相談することとなる。新年度早々から検討に入りたい。

Q くらさき荘営業収入額を見込んだ根拠は何か。また、全体的に施設の老朽化が進む中で、特に客室の畳などかなり傷んだ状態であるが、修繕の計画はあるのか。

A 昨年度から本館、別館を閉鎖し新館のみでコンパクト化し営業しているが、昨年度の当初予算では、施設のコンパクト化による収入実績がなかったことから、根拠に基づかない予算を編成せざるを得なかった。

が望ましく、見直す時期であることから漁協、水産会社、生産者が協働で実施できるように検討していく。

誘客対策については、インフォメーション事業でモニターツアーを企画し、平成19年度は5回で170人（内くらさき荘宿泊者70人）を集客し、ホウレンソウの収穫、シイタ



盛岡市などから参加しホウレンソウの収穫体験をするモニターツアー客。19年度は5回行われ170人を集客し村をPRしました

ケの植菌などの体験活動などを通じ地区の方々との触れ合いを持つていただきたい。

Q ふだいまつりの手造り山車に対して補助金340万円を計上しているが、金額の根拠と経緯は何か。

A 昨年まで八戸市から道路の運行規制が厳しくなり

Q 新規事業として漁業担い手研修事業が計画されているが、事業の目的、研修先の選定理由及び研修の内容、対象者をどう考えているか。

A 本村の主産業である定置網漁業に従事する漁業者の技術養成のための研修である。研修先は漁協とも相談して、定置網の製造・研究において古い歴史をもち技術的に優れている石川県の北陸製網㈱を選定した。

技術指導なども受けながらの研修であり、将来の担い手対策とも考えている。対象者は18歳以上40歳までの漁業者

で、新規に漁業に従事したい人も対象に5人程度を選定したい。

Q 観光特産品インフォメーション事業、特産品ブランドづくり事業、北緯40度ふだいまつり観光物産事業、北の漁場・網起こし事業など観光客の誘客と特産品の販路拡大のための事業にこれまで多額の経費を充てている。

新年度も引き続き計画されているが成果は上がっているか。特に物産のPRや販売は村の職員が中心となっており、大変苦労して行っているが、民間の参画、生産者自らの販売努力も必要と思うが、見直す考えはないか。

A 観光客の誘客対策として特産品の販路拡大事業は首都圏などにも販路を広げ継続して取り組んだ。特産品販売は少しずつではあるが着実に成果は出ている。現時点では民間の参画はほとんど得られず、職員が中心となり各方面に足を運んでいる。今後は協働での事業展開